

床工事業向けOEM増える

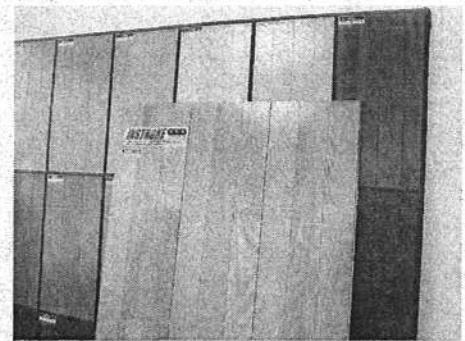
センエイ伊万里工場

自社開発商品とともに生産拡大



センエイ（大阪府岸和田市、間崎泰光社長）伊万里工場（佐賀県伊万里市）は、同社のフロア生産拠点として月間3万坪弱を生産している。かつては大手建材メーカー向けを含めたOEM供給が中心だったが、約6年前に自社開発商品に取り組み始めた。2〜3年前からは販売が軌道に乗ったことで、昨今では生産比率も半々程度になっていった。だが、このところ床工事業者がフロアの自社オリジナル商品を持ちたいという機運が高まり、この要望を受けたOEM供給が増えていることで、再びOEM品生産比率が6割程度まで上昇している。

同工場は1995年 供給できる。JAS認からフロアを生産して 定は複合1種（南洋材お、九州では唯一の 合板十ツキ板）、同3複合フロア工場だ。1種（南洋材合板十MD×6板12ミ厚を主体と F十ツキ板）があり、するが、15ミ厚製品も 生産比率は6対4とい



インストロークも市場に投入

るところ。シート張りは1割未満になっている。

自社開発製品では、さきごろ発売を開始した「インストローク」がある。これは「古くて新しい商品」（同社）をコンセプトに、あえてオークの懐かしい柄を採用してクリア塗装で仕上げている（他柄・色もあり）。ムク材への要望が強い九州でも受け入れられ

やすく、性能が担保されたフロアとして提案している。商品の高度化が進むなかで「肩の力が入っていない商品」（同）というのも逆張りの特

徴の一つだ。また、「ランディ」はフロアメーカーが15ミ厚製品から撤退していくなかで、九州・沖縄ではまだ要望のある同厚製品としてニッチ需要に対応している。14・5ミ厚合板に、直接ツキ板を張って15ミ厚に仕上げたものだ。製販一体型の展開、自社商品で培った開発力などを背景にして、伊万里工場では今後も

九州内の床工事業者向けオリジナル商品のOEM供給に力を入れていく考えだ。間崎社長は「自社開発商品には今後力を入れて取り組んでいくが、工場稼働率を高めるという意味でも、九州内顧客の新たな要望にも積極的に対応していきたい」と話している。